

研究者:米澤 大輔 (所属:新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔生命福祉学分野)

研究題目：歯科衛生士臨床実習で行う卒業前パフォーマンス評価の妥当性の検討

目的：

平成 28 年度歯科衛生学教育コア・カリキュラムでは、歯科衛生士としての質の向上と一定水準の質の担保が謳われている。また、歯学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても、臨床実習終了時の態度・技能評価の重要性が述べられている。なかでも臨床実習の評価は、歯科衛生士として最低限必要な臨床能力の確保を行うために重要である。新潟大学歯学部口腔生命福祉学科では、2019 年度より、臨床実習評価のためのルーブリックを用いたパフォーマンス評価トライアルを実施している。パフォーマンス評価は、評価課題と評価基準（ルーブリック）を用い、臨床能力のような高次の総合的能力評価に適している。そこで、本研究では、臨床実習における卒業前パフォーマンス評価について、評価課題とルーブリックを開発し、その妥当性検証のための基礎データを得ることを目的とした。

対象および方法：

本研究は、新潟大学の臨床実習評価を対象とし、ルーブリックを用いた卒業前パフォーマンス評価をトライアルで実施した。今年度のトライアルでは、使用したルーブリックの評価者間信頼性を検証した。評価者（歯科医師、歯科衛生士）による、評価結果の一致度合いについて解析を行った。また、パフォーマンス評価を受けた学生にアンケート調査を行い、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の有用性について検証した。アンケートの質問内容の一部は、表 1 の通りである。

表 1 アンケート調査質問内容

質問内容	
1) 受検方法は分かり易かったか。	8) 指導担当者は学生を理解し、尊重していたか。
2) ルーブリックによる評価項目と評価レベルは臨床実習で求められている実践内容を提示していたか。	9) 課題（検査、指導、処置）に対する時間配分は適切であったか。
3) 臨床技能の評価基準はわかりやすかったか。	10) 患者と直接、接する機会（症例）は十分であったか。
4) 前期の実習評価は臨床技能の評価に役立ったか。	11) 臨床技能の評価を行うに当たり、過去の実習は効果的だったか。
5) お口の健康室以外の他の診療科での実習は臨床技能の評価に役立ったか。	12) 臨床技能の評価後、教員からのフィードバックは今後の実習に効果的だったか。
6) 臨床技能の評価時の事例の難易度は適切であったか。	13) 臨床技能の評価後、客観的な振り返りができたか。
7) 臨床技能の評価は公正かつ正確であったか。	14) 臨床技能の評価は、お口の健康室における 4 年次臨床実習の評価として満足のいくものであったか。

【ルーブリックを用いたパフォーマンス評価】

①評価者間の一致と信頼性の検証

・評価者：歯科医師 4 名、歯科衛生士教員 4 名の信頼性の検証

②パフォーマンス評価得点の比較

③教員による評価と学生による自己評価の一致度

【学生へのアンケート調査】

- ・パフォーマンス評価の評価項目ごとの自己評価
- ・前期プレ評価フィードバック後に、学生が取り組んだ学習（行動）
- ・受検方法および評価基準のわかりやすさ
- ・ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の有用性
- ・評価結果に対する満足度
- ・自由記述：評価の受検経験を今後どのように活かせるか
- ・4年次臨床実習を通しての評価

統計処理は、 κ 係数による一致度について、統計ソフト SPSS[®]（Ver.22.0 IBM、東京）を用いて行った。なお、本研究は新潟大学倫理委員会の承認（承認番号 2019-0328）を受けて実施した。

結果および考察：

結果

ルーブリックの評価項目については、【患者に対する配慮】【病状の把握と処置・指導（補助）の必要性に対する理解】【器材準備】【器材等の取扱と必要な処置等の実践】【実施内容の記録・自己評価】【医療安全（感染）に対する配慮】の6つを設定した。歯科医師、歯科衛生士教員間の評価一致度を評価項目ごとに比較した。その結果、【病状の把握と処置・指導（補助）の必要性に対する理解】、【器材等の取扱と必要な処置等の実践】、【実施内容の記録・自己評価】、【医療安全（感染）に対する配慮】の項目において、一致度が極めて高かった（0.81-1.00）。また、【患者に対する配慮】、【器材準備】の項目では、一致度が高かった（0.61-0.80）。

また、学生へのアンケート調査の結果を図1に示す。多くの項目において、そう思う・ある程度そう思うといった肯定的な意見の割合が、80%以上を占めた。質問内容【1）受検方法は分かり易かったか】の項目のみ、80%以下であった。

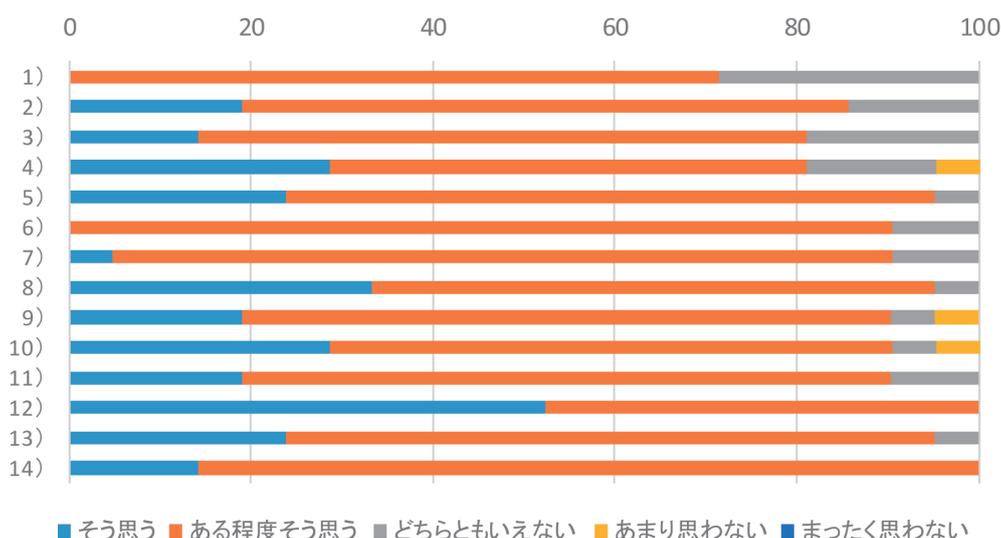


図1 臨床実習評価のアンケート結果

考 察

これらの結果より、今年度よりトライアルを開始した、ルーブリックを用いた卒業前パフォーマンス評価は、評価者間による信頼性は確保されることが示唆された。一部、一致度が低い項目については、評価項目の再考と、評価者間による基準の統一を図ることで、改善が期待される。また、学生へのアンケート調査の結果より、学生にとっても、本調査における評価方法は、概ね良好な結果であることが示された。【受検方法が分かり易かったか】の項目が低かったのは、実習前のオリエンテーション時の説明と、実際のトライアルの開始直前に微修正があり、学生の中で多少の混乱があったためと思われる。次年度以降の改善点としたい。

本調査により、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の有用性が示唆された。広範囲の様々な学習成果を評価することができるパフォーマンスの課題は、学生の理解力、複雑なスキル、思考の評価を可能にし、ルーブリックを用いた評価は、教員の教育技法の向上や平等な学習環境の整備を可能にするという利点が示されている。今後も本研究を進めていくことで、口腔保健福祉教育プログラムを履修した学生に養成された「口腔保健・歯科医療・福祉を総合的に思考・展開できる能力」を評価することが、本学科のカリキュラムの優位性の裏付けに繋がっていくと考える。

また、今後は、本調査の結果のさらなる解析を行い、次年度以降におけるルーブリックの改訂を行うことで、妥当性の高い評価基準の構築を行う予定である。

成果発表：（予定を含めて口頭発表、学術雑誌など）

教育関連学会にて発表予定